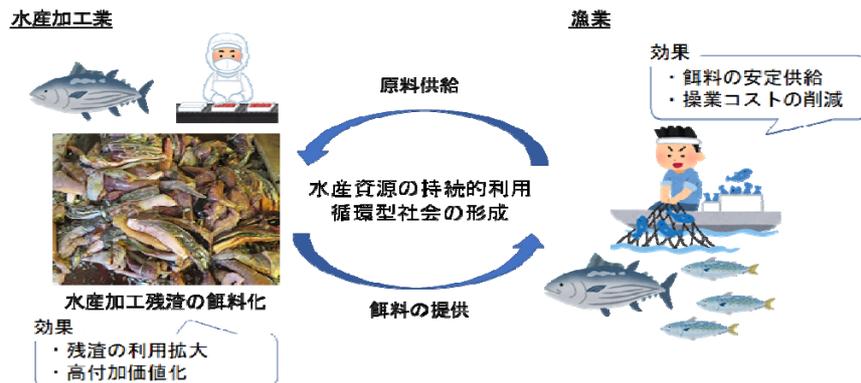


水産資源の持続的利用・循環型社会を目指した 餌料開発

(予算区分 研究費 研究期間 2023～2025 年度)
担当：水産・海洋技術研究所 開発加工科 大島伊織

【研究の背景とねらい】

- 令和 2 年の静岡県漁船によるかつお類の漁獲量は 58,882t で全国第 1 位であり、水産加工業の生産量及び出荷額は全国第 3 位を誇ります。
- 県内の主要な漁業である遠洋かつお一本釣り漁船は、1 航海あたりいわし類の活餌約 5 トン(約 500 万円)を使用し、燃油代の 2 割を活餌用水槽の低温管理に費やしています。また、さば棒受け網漁業ではいわし類を主体とする冷凍生餌を多用しており、近年、餌代をはじめ燃油の高騰等により経営が圧迫されています。
- 上記の漁業においては、操業コスト削減及び餌料の安定確保の観点から代替餌料の開発が熱望されています。
- 水産加工の際に排出される魚類の内臓等は、主に飼肥料向けに処理されている状況であり、加工業者からは加工残渣の利用用途の拡大、高付加価値化が求められています。
- 本研究では、水産加工残渣の漁業用餌料化を目的として、魚類飼育施設を利用した魚類の誘引効果の検証、加工残渣中の誘引物質の探索及び餌料開発をおこないます。



本研究の概略図

【期待される効果】

- 水産加工残渣の有効利用及び利用用途拡大により高付加価値化につながります。
- 代替飼料の利用により従来の餌料コスト及び操業コストの削減が見込めます。
- 加工残渣を利用した餌料により漁業を行うことで水産資源の持続的利用、循環型社会の形成に寄与します。

【年次計画】

細目課題	2023 年度	2024 年度	2025 年度	研究内容
水産加工残渣の誘引効果の検討	○	○		・水産加工残渣の成分測定 ・誘引効果の評価法の確立 ・誘因成分の把握
代替餌料の開発及び実証試験		○	○	・餌料形状及び保存性の検討 ・水槽でのモデル試験 ・漁船での実証試験

(作成 2023 年 4 月)